

## 1 提案テーマ 『支援級のグループ活動を考える。～子どもたち同士の関わりを深めるために～』

## 2 学年 第1学年～第6学年

## 3 学習指導要領との関連

特別支援学校 小学部 学習指導要領

第7章 自立活動 第2内容

### 3. 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
- (4) 集団への参加の基礎に関すること。

### 6. コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
- (2) 言語の受容と表出に関すること。
- (3) 言語の形成と活用に関すること。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

## 4 実践に向けての課題意識

本学級には17名の個性豊かな児童が在籍しており、学年も1年から6年と全学年に渡っている。子どもたちは、休み時間にみんなで鬼ごっこをして楽しく遊ぶこともできるが、一方で互いの言動が刺激となり、トラブルに発展することも少なくない。子ども同士がよりよい関わり合いをもち、その中で温かい人間関係を築き、互いに成長し、自立への道に繋げていくことが本学級の大きな目標である。そこで、異学年集団である本学級の特徴を生かし、縦割りのグループによる活動で目標に迫れないかと考えた。まずは、子どもたちに「にこにこハッピークラスにしていこう!」と投げかけ、どうしたらみんながにこにこ楽しく過ごせるかを共に考えてみることからスタートした。縦割りのグループ活動については、2018年度は、図画工作科の時間が中心であったが、2019年度は体育、生活科など様々な学習場面に取り入れ、本実践に取り組んだ。(2020年度は新1年生を迎え、19名となった。新しいグループで、少しずつ活動を開始する予定である。)

## 5 実践の概要

様々な学習活動、日常生活の指導の中にグループ活動を取り入れ、仲間と一緒に協力し、学んでいくことの楽しさや満足感を共有させる場面を設定した。

- ① より良いコミュニケーションの土台として、言われてうれしい言葉をみんなで出し合い考えた。大きなハート型の模造紙を教室に掲示して、日常の場面でも子どもたちが発した素敵な言葉を随時書き込み、共有していった。
- ② 休み時間に学級みんなで遊ぶことを習慣化(みんなで空間を共有する)。その中で起こるトラブルの解決方法をみんなで考える時間を設けた。また、自分自身の課題についても考えていけるように支援した。
- ③ 上級生と下級生のペアで活動する場面を設定した。校外活動、特別教室への移動、休み時間など固定化したペアで活動に取り組んだ。
- ④ 学習場面にグループ活動を取り入れた。17名を4～5人の4グループに分けて活動した。リーダーを中心にチーム名を考えた。グループ活動をすることで、互いに助け合ったり、上級生が下級生を思いやったりする場面も見られるようになった。また、ひとりではできなかったことも友だちや上級生の真似をしてやり遂げることもできるようになってきた。

## 6 成果と課題

(成果)

- ① 互いに意見を出し合ったり、思いを伝え合ったりする中で、みんなが気持ちよく遊べるルールを考えられるようになってきた。

- ② 上級生の自覚や自信に繋がった。下級生も上級生を慕い、一緒に行動するという意識が少しずつ芽生えてきた。
- ③ 大人を介さず、子ども同士で、上手に関われる場面が見られた。  
(学校のお祭りでは、子ども同士が自発的にグループを組んで活動できた。)
- ④ 互いの特性を理解し、時には我慢したり、許したり、スルーしたりという行動がとれるようになってきた。

(課題)

- ① リーダーを育てていくための支援。
- ② 子どもの特性を生かしながら互いに助け合えるグループの組み方。

個人差もあり、トラブルもまだあるが、一人一人の課題をしっかり捉え、適切な支援を考えていきたい。